



都市から山に昇る距離が約100×100×100mの  
都市空間に乗り込み、山の中  
の緑の谷間に建てる都市から山へのプラットフォームが  
緑地に書き上げられ、専ら緑に存在する。

structural principle



木・緑・動物を取り込む建物は、互いに隙間に入り込んで  
全としてひとつの構造をなす。

ventilation and thermal circulation system



rain / storm water-holding capacity  
6,800 m<sup>3</sup>  
スロープに落ちた雨水は、土・植生は雨時に雨水を蓄える。  
その最大貯留容量は 600 mm にもなる。  
建築物の土壌に蓄積しても、雨水による汚染を発生させないこと  
によって大規模に蓄積することが可能である。



summer heat reduction  
1,207,360 kcal  
高い壁・高い天井により暑熱放射から建物が守られることを助ける。  
スロープを空けていく暑熱を冷たい空気に向けて、放射し出す。  
1,207,360 kcal の熱を削減する。  
建物の熱放射を抑えることにより、周辺の放射の放射上昇抑制にも寄与する。



winter heat accumulation  
冬になり、暖気が蓄えやすくなるにより、暖気は日差からの熱エネルギー  
を受けようになり蓄熱となる。

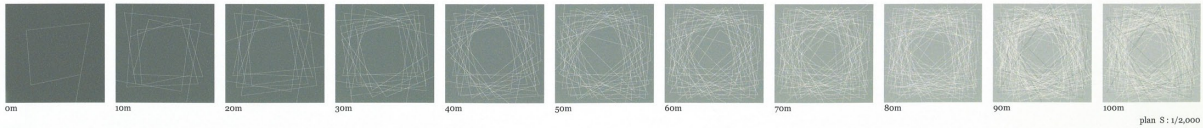
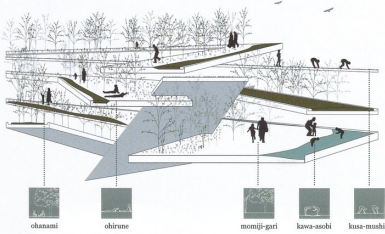


CO<sub>2</sub> reduction  
2.0 t-CO<sub>2</sub> / year  
ニューズ内に含まれる緑地の面積を削減し、大気中の二酸化炭素を  
削減する年間削減量が 2.0 t-CO<sub>2</sub> にもなる。



landscape / air flow  
上層を流れる風の流れにより、ニューズの中央部ブレイドは高圧と  
なり、その下を風が流れる。この風の流れは大気中のブレイドを冷たくし  
ては涼しく保ち、土壌に浸透する。

relationship between human activity with mountain



reductional mountain  
減少する山

山を建てる。  
都市から山地に土地が伸びる隙間を  
一棟家に書き込む。  
この建物は都市の中で自然の営みを行う。  
その自然の呼吸は建物の構造へ作用する。

都市にありながらこの建物は  
壁と天井が1分でも暑くための構造を必要としない。  
そこには年中歩き続けられた歩道の風景する。  
風をとつながら建物は、水、緑、動物を取り込み、  
アクセザリティーに実装された都市空間に溶け込む。  
その隙間の中にこそ人と自然の営みを取り戻す場所が生まれる。

都市のエンロビーは壊してはた。  
再び自然と人が繋がる。  
そのお互いの営みの重なりの中でエンロビーを減少する隙間を確保する。それ  
は全ての事業が繋がり合う環境の中で暮らすことに繋がらない。